愛光NEWS
2023年１０月

２０２３（令和５）年１２月２０日発行
（編集）愛光本部企画室
（TEL）０４３－４８４－６３９１
（メール）https://www.rc-aikoh.or.jp/

２０２３年１０月７日（土）、法人の秋まつりが開催されました。コロナ禍のため４年間開催することができなかったため、利用者、職員、みんなで開催を大変楽しみにしていました。

当日は天気にも恵まれ、多くの地域の方々にご来場いただき、１１時に開催宣言が行われスタートしました。

□事業経過など（2023.10.1～）

月/日(曜)	記　　事
10／1(日)	根郷福祉まつり
2(月)	本部実績会議
3(火)	業務執行会議
4(水)	広報委員会/地域食堂委員会/本部スタッフ会議/法人採用試験
7(土)	愛光秋まつり
10(火)	防火防災委員会
11(水)	コ・ヒューマントレーニング
12(木)	メンター委員会/法人採用試験/ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
13(金)	職場改善委員会
18(水)	地域食堂ともいき（お弁当販売）/栄養改善委員会
20(金)	ボランティア委員会
22(土)	オレンジカフェ
24(火)	３年目交流会
25(水)	障害者支援事業部実績会議/財務ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ/地域福祉事業部実績会議
26(木)	はちす苑経営改善ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
27(金)	高齢者福祉事業部実績会議
31(火)	法人コンプライアンス委員会

■おもな出来事

□法人秋まつり

　１０月７日、法人の秋まつりが４年ぶりに開催されました。コロナ禍で開催することができず、利用者、職員、みんなで開催を楽しみにしていました。当日は天気にも恵まれ、多くの地域の方々にご来場いただき、１１時に開催宣言が行われ、スタートしました。

　舞台の上では、根郷中学校の吹奏楽部をはじめ、バリバリキッズ、清丸太鼓、舞謳歌の４つの団体のパフォーマンスが行われ、おおいに盛り上がりました。また、今年は猿芸工房による猿回しの芸が披露され、来場した子どもたちも楽しんでいました。

　今回、法人が実習生の受入れを行っている大学、専門学校から４０名以上の学生がボランティアとして参加してくれ、学生たちもボランティアの役割を果たしながら、おまつりを楽しんでいる様子がうかがえました。

　模擬店にも、近隣の社会福祉法人等、多くの関係団体にご参加、ご協力いただきました。大勢の地域の方々にご来場いただき、楽しい時間が共有されました。

■月報から

□努力の結晶（めいわ）

　秋まつり直前、コロナ感染者が１名出ていたが、幸い広がることはなく、ほとんどの利用者の皆さんは久しぶりに会場のお祭りの雰囲気を楽しむことができた。日中活動班も当日会場で販売をした。農耕班は堆肥「げんきくん」と収穫したばかりのサツマイモ、手工芸班は自慢のさをり織とその作品。

　そして・・・創作班は秋まつりに向けた新商品を出すため、５月から試行錯誤を重ねフワフワで吸湿性の高い紙素材を作った。リーダー曰く、「いつも頑張っているみんなの努力を形にしたくて…。」当日は、油吸収パットとして販売し、１０個入り５０円、３０個用意して２４個を購入いただいた。

（めいわ課長　中田　憲一郎）

□お別れ会（ルミエール）

　２６日に入院されていたご利用者が亡くなられた。昭和６１年に当時の明和園に入所され、３７年間愛光で過ごされてきた。８月に入院して９月に退院できたがすぐに再入院となってしまい施設に戻ることができなかった。最近はコロナ禍で施設でのお別れ会をすることがなかったが家族の強い希望により短時間であるがお別れ会を行うことになった。法人内から彼と関わった多くの職員が集まってくださり最後の時間を過ごすことができていかに彼が多くの人から愛されているかがわかる会であった。

心よりご冥福をお祈りいたします。

（ルミエール課長　原　宏之）

□思いがけない贈り物（リホープ）

9 月、手工芸班が佐倉駅の市民ギャラリーに作品を展示した。その展示を見た地域の方から織機の寄付の申し出があった。その際、メールで「数週間前に JR 佐倉駅の展示コーナーで素敵な作品を拝見させていただきました。色合いや丁寧な作業に見とれてしまい駅へ行くのが楽しみでした。」との温かい言葉をいただいた。日頃、頑張っている利用者にはとても嬉しく、励みになる出来事となった。先日、織機を取りに行ったが、残念ながら使い方が分からなかった。再度連絡を取り、来所していただき、直接教えて頂けることになった。作品が繋いだ地域の方との出会いを大切にし、新しい織機に挑戦出来る日が来るのを楽しみにしている。

（リホープ課長　稲垣　直子）

□家族会からの贈り物（よもぎの園）

家族会から寄贈していただいたテントを使用した行事を企画、開催した。当日は秋晴れというよりも“初夏の陽気！？”の中、毎年恒例の『秋楽会』を外で楽しむことができた。職員が腕を振るって、「焼きそば」「フランクフルト」「おにぎり、焼きおにぎり」園庭で収穫したゴーヤを使った「ゴーヤチャンプルー」を作った。ゴーヤの苦みは皆に受け入れられるか少しの心配はあったものの、蓋を開ければ“美味しい”“お代わりないの？”と盛況であった。

眩しすぎるくらいの日差しの中であったが、寄贈いただいたテントのおかげで心地よく過ごすこともでき、家族会に感謝したい。

（佐倉市よもぎの園主任　近藤　真一）

□工賃規定の改定（ワークショップかぶらぎ）

ワークショップかぶらぎは、自立訓練事業【通称：ライフステップコース】と就労継続支援 B 型事業【通称：フレックスワークコース】の 2 事業で構成している。先般スタッフ会議での議論を経て、利用者に対し作業工賃の支払い方を定めた工賃規程の改正案を諮った。内容は、年度末賞与の対象をこれまでは、いずれの事業の登録であっても対象としてきたが、両事業の目的の違い、通所する利用者の個別支援計画の方向の違いを勘案し、今後は就労継続支援 B 型事業の登録者に限って支払うとするものである。意見や質問を受付ける期間も設けたが大きな反対意見なく賛同を得ることができた。新規程は 11 月より適用することとしている。

（ワークショップかぶらぎ主任　宮部　和樹）

□防災訓練（ジョーの家）

9 月は暑さが続いているため、月をずらして自衛防災訓練を行った。当日は、16：20 頃から開始予定だったが、佐倉の祭礼のため臨時バスルートになっており、利用者の帰所が遅れ、開始も遅くなった。うち 1 名は訓練を忘れており、開始に間に合わなかった。訓練は入居者 3 名で行った。前回の反省も踏まえ、電話連絡係以外も携帯を持参することを意識して行えた。災害時は広域避難所へ到着できても、設営が間に合っていない可能性がある。このことに関して入居者と、ジョーの家の被害状況、周りの環境を含め、その場に待機するかジョーの家に戻るかの打ち合わせをすることができた。今後も災害時に入居者同士で助け合いが出来る訓練を目指していきたい。

（ジョーの家　高橋　健）

□愛光秋まつり（根郷通所センター）

今年度は、コロナ明けの開催ということもあり、事業所を閉所としご家族の判断においての参加形式を取らせていただいた。年度当初に作成した年間の開所計画でもあったこともあり、各々がそれを見込んで予定を組んでいたようである。参加人数は全体の半数程度に止まったが、多くのご家族が自主生産品を実際に手に取り嬉しそうに購入されていた。また、酒々井パーキングに行ったことのないご家族からは感動したとの声も聞かれ、職員とも会話が弾むなど有意義な時間を過ごすことができたようである。次年度は、開所して、より多くの方が来所していただけるような体制で臨みたい。

（めいわ通所部所長　菊地　暁生）

□季節は移って秋本番（山王の家）

今年は4年ぶりに愛光秋まつりが開催された。利用者Aさんがポスターやチラシを見ながら当日を心待ちにしていた。当日はまつり日和の中、両手一杯の買い物を楽しみ、ステージで行われたダンスを見て自分もとステージに上がり楽しそうに体を動かしていた。こんなに踊れるとは思っておらず新しい発見だった。

愛光秋まつりから1週間後の佐倉秋まつり。AさんとBさん、職員の3名で参加。この祭りもコロナ前に行なっていたように制限なく開催されていた。麻賀多神社の神輿や各町内の山車がたくさん出て威勢のいい掛け声を聞いていたが、やはり気になるのは屋台で売っているものだった様子。自分の目当ての物を人ごみをかき分け探し出していた。これで、ここ2～3か月の間に行きたいまつりはすべて終了したようだ。また来年となるが利用者が楽しみにしているものの一端を知る事が出来た機会になった。

（山王の家管理者　岡本　綾子）

□はちす苑開設記念日（はちす苑）

1999年10月1日　はちす苑が開設した記念日である。
ささやかであるがお祝として小豆のお赤飯を用意した。おかずは軟らかい肉だんごの煮しめとし、デザートはこしあんのおしるこをご用意した。

当たりまえのようにこの日を迎えたが、入所者やご利用者がはちす苑で過ごされて安らげる住まいであるといいと願う。

10月31日が大きな南瓜をくり抜いて飾る英国のハロウィンのお祭りである。
行事にちなんだ食材の料理を考えることが悩ましいが、頭の中で材料と材料と調理を組み合わせる。今年は南瓜のペーストを卵、砂糖、牛乳と合わせてココットで蒸しあげた『　南瓜プティング　』にした。

スチームコンベクションオーブンから甘い香りの湯気が立ちあがった。滑らかな温かい南瓜のプリンに仕上がった。「美味しい！」のお声を頂けるとやりがいのある仕事だと実感する。

（はちす苑　管理栄養士　江口　貴子）

□根郷福祉まつりの開催（南部地域福祉センター）

10 月 1 日（日）南部地域福祉センターにて、恒例の大きなイベント根郷地区社会福祉協議会主催「根郷福祉まつり」が開催された。当日のＡ棟ゲートボール場では、高齢者の同好会メンバーに担当をしていただいた「ゲートボール体験」を開催。当日、小さなお子様を連れた多くの家族が訪れ、みんなでゲートボールを体験されていた。高齢者の同好会の指導もあり、とても和やかで温かい雰囲気の光景が見られた。

お祭りには、根郷中学校の生徒がボランティアとして来所し、参加してくれた。外の暑い中、大きな声でお客様に各会場に来てもらえるよう、呼び込みをしてくれるなど、積極的にふれあう姿が会場全体を繋ぎ、盛り上げてくれた。また、「生け花教室」の講師担当による「茶道体験」のブースが開かれた。訪れた来場者は、本格的な「お抹茶とお菓子」を堪能、召し上がっている様子が見られた。

中庭の出店ブースでは、地域で作られたお米の販売があり、袋の数に限りがあったようで、その限定の「お米」を購入された方の喜ぶ姿が印象的だった。

（南部地域福祉センター　青山　秀人）

□まち協農園で楽しむ収穫体験：笑顔と家族の交流（佐倉市南部児童センター）

まちづくり協議会環境部のみなさんにご招待いただき、まち協農園のさつま芋や里芋・落花生の収穫祭に参加した。2歳以上の子どもとその保護者を募集。スマイルクラブの子どもたちとその家族も合わせて、総勢80名が参加した。夏にイノシシの被害にあったとのことで、さつま芋の収穫は例年より少なかった。秋晴れの下、元気な子どもたちの笑顔の絶えない楽しい収穫体験となった。お芋ほりは定番の楽しい収穫だが、落花生の収穫は初めて体験する人も多く、根元をぐっと引っ張ってひっくり返し、たわわに実った落花生が顔を出すと、子どもたちからは「わー、ピーナッツ！！」と驚きの声があがった。また、家族そろっての参加が多く、普段はあまりセンターに来られないパパたちや家族同士の交流の機会にもなった。顔見知り・・・から友だちへと距離がぐっと縮まったようである。

（南部児童センターインストラクター　吉田　知加子）

□秋の楽しみ方（学童保育所）

今日の「カレー」の材料は、落ち葉や木の実などの自然の恵みである。作っているところをのぞこうとすると「まだ準備中だから近づいてはダメ！」と断られた。正式な開店までにはまだ時間がかかりそうだ。一方、別の「レストラン」では、きれいに色づいた葉っぱや木の実を集めて、「和風」「フランス風」「イタリア風」とメニューが豊富な様子。色づいた葉っぱをふんだんに使った盛り合わせが鮮やか。もちろんこれは秋ならではの遊びの話である。自然を相手に、外遊びに夢中なのである。

あるもので遊びをつくり出す遊びの天才たち！このような「見立て遊び」を見ていると、なぜかホッとする。大切にしていきたい遊びである。（山王学童の報告から）

（学童保育所主任　齋藤　理江）

□オレンジカフェ　～3 年ぶりにはちす苑へ～（総合相談センター）

　22日（日）、毎月恒例のオレンジカフェが開催された。今月から3年ぶりに飲食を再開し、場所ははちす苑に戻った。参加者は当事者・家族15名、ボランティア4名。参加者のなかで3年前のオレンジカフェを知っているのはお一人で、ほとんどの方は飲食ありのカフェは初体験だった。どちらかというと受け身で参加されていた参加者の皆さんも、飲み物とお菓子があると自然と会話が弾んでいた。ボランティアの皆さんも、初めは「どうだったっけ？」と言いながら、3 年ぶりとは思えないほどテキパキと動いてくださり、活気のあるオレンジカフェとなった。

　待ち望んだ飲食再開。本来のオレンジカフェの雰囲気に戻り、いつも以上に「交流」を実感した回となった。

（総合相談センター所長　森　由美子）